



[令和8年度定期総会]

手稲郷土史研究会 令和 8 年度定期総会が、令和 8 年 4 月 25 日(土)手稲区民センターにて開催されました。

初めに沖田紘昭会長より以下ご挨拶がありました。

「より良きテイネ人になる」ということ

昨年は当研究会も創会 20 周年を迎え、色々な事業をおこないましたが、会員の皆様の格別な協力により無事予定どおり終了することが出来ました。「郷土史ていね」第 2 巻の発行も、たくさんの協賛企業様のご協力によりお陰様で事業としても成功いたしました。これらの行事を通して会員の皆様の団結が益々強くなったように思います。大変ご苦労さまでした。また新しい令和 8 年に向けて羽ばたいていきましょう。



新年度計画は研究部の活発な活動により、例年にない素晴らしい新規の取り組みが増えました。5 月 4 日には「大人の一日散歩」ということで北大植物園の見学が行われますし、6 月 8 日には永山邸にて「石狩郷土史会との交流会」が開催されます。また夏休みには「夏休みこども歴史講座」が予定されるなど、毎月の例会に加えて盛りだくさんの事業が計画されております。梶本さんが再加入して新しい血が加わり、活性化した結果でしょう。すべての事業が盛会で、無事に終了できますように願っております。

私たちの活動は郷土史の研究という非常にわかりやすい目的をもっていますが、それでも時々、自分は何をやっているのだろうと思うことがあります。そんな時、私は昨年たゆまざる歩みを読んでいて国井 2 代目会長の言葉に出会いました。最晩年の言葉として「私もこれでやっと手稲人になれたのではないかと思う。。。。。」というくだりです。なにげない言葉ですが、私はハットしました。モヤモヤしていたものが吹き飛んだのです。私たちも今後の心の目標として「より良きテイネ人になる」ことを掲げてはいかがでしょうか。そして何より昔の手稲の人々が皆そう思っていたと知ったからです。おそらく札幌の 10 区の中で、大きな手稲山を背にし、ふる里手稲をこう語る事が出来るのは手稲区民だけでしょう。この言葉はきっと将来の手稲の人々にも永く支持されていくのではないかと思います。

続いて、議案の審議に入り、第 1 号議案「令和 7 年度事業報告」、「定例会実績報告」、第 2 号議案「令和 7 年度会計収支決算報告」、第 3 号議案「令和 7 年度会計検査報告」、第 4 号議案「令和 8 年度事業計画(案)」、令和 8 年度定例会計画(案)、第 5 号議案「令和 8 年度会計収支予算(案)」、第 6 号議案「令和 8 年度役員選任(案)」のそれぞれの審議の結果、すべて承認されましたのでご報告いたします。

令和 8 年度は、特別事業として以下を計画しております。

① 夏休みこども歴史講座

8 月 7 日	手稲クジラの化石の話	札幌市博物館活動センター
8 月 8 日	歴史あれこれ	札幌市埋蔵文化財センター
8 月 9 日	手稲の歴史	手稲郷土史研究会員

② 「手稲こども郷土史祭り」の開催

昨年に続き、8月21日～8月23日にイオン手稲駅前店1階広場にて、イオン、北海道科学大学の協力を得て第2回目のイベントを計画。

区役所1階の「ていぬの部屋」の展示物を定期的（1～2カ月）に地域振興課と連絡を取り変更する予定。

令和8年度 定例会予定

開催日	研究発表内容・講師等
(第232回) 令和8年 4月25日(土) 13:30～ 区民センター 2F 第1、2会議室	「令和8年度定期総会」 議案書(案)の説明・審議 「懇親会」
(第233回) 5月16日(土) 13:30～ 区民センター 3F 視聴覚室	「赤い靴の女の子」 手稲郷土史研究会 会員 梶本 孝 様
(第234回) 6月20日(土) 13:30～ 区民センター 会場未定	「ジンギスカン誕生の謎に迫る」 おいしい北海道の歴史物語 まち歩き団体デスカバーエノ 伴野 琢磨 様
(第235回) 7月18日(土) 13:30～ 区民センター 会場未定	「測量と地図の話」 国土地理院北海道地方測量部 次長 小野里 正明 様
(第236回) 8月15日(土) 13:30～ 区民センター 会場未定	定例会を野外学習とする
(第237回) 9月19日(土) 13:30～ 区民センター 会場未定	手稲で見つけた気になるあれこれ 手稲郷土史研究会 会員 菊池 博行 様
(第238回) 10月17日(土) 13:30～ 区民センター 会場未定	当別入植以後の話と駅通 当別町歴史ボランティア アドバイザー 当別文芸の会代表 開拓の村ボランティア 東前 寛治 様
(第239回) 11月21日(土) 13:30～ 区民センター 会場未定	手稲の住宅地に残された貴重な植物 (有)緑化計画代表取締役 笠 康三郎 様
(第240回) 12月19日(土) 13:30～ 区民センター 会場未定	手稲倶楽部が伝えたこと 手稲郷土史研究会 会員 一ノ宮 護 様
(第241回) 令和7年 1月16日(土) 13:30～ 区民センター 会場未定	山口村の瓜類の里の農業 北海道指導農業士 尾池 淳一 様
(第242回) 2月20日(土) 13:30～ 区民センター 会場未定	加賀百万石の快馬 前田 利為 手稲郷土史研究会 顧問 小田 真二 様
(第243回) 3月20日(水) 18:15～ 区民センター 会場未定	映画鑑賞の予定 手稲郷土史研究会 会員

令和8年度 手稲郷土史研究会 役員名簿			
役職	氏名	分掌	備考
顧問	平木 重男		再任
顧問	鈴木 清士		新任
顧問	永井 肇光		新任
顧問	立花 顯次		再任
顧問	若松 幹男		再任
顧問	茂内 義雄		再任
顧問	小田 真二		再任
監事	都築 俊文	会計監査	再任
監事	浜谷 義昭	会計監査	再任
役職	氏名	分掌	備考
会長	沖田 紘昭		再任
副会長	立花 邦雄	(研究、渉外担当)	兼任
副会長	乙黒 通子	(広報担当)	再任
事務局長	林 俊一	(総務広報)	兼任
理事	伊藤 政克	総務部長	兼任
理事	中島 千恵子	会計部長	再任
理事	濱埜 静子	研究部長	再任
理事	梶本 孝	研究副部長	再任
理事	神川 君江	研究部委員	再任
理事	伊藤 政克	資材・広報部長	兼任
理事	菊池 博行	研究部委員	再任

総会終了後、立花副会長の開会の言葉により懇親会開始されました。

続いて、沖田会長より挨拶があり、次に来賓の手稲区連合町内会連絡橋議会の平川会長より、昨年出版した「たゆまざる歩み」第2巻を含めたご挨拶をいただきました。その後、茂内顧問の乾杯の発声によりにぎやかな歓談がスタートしました。各テーブルお話が盛り上がっていました。

終りの乾杯の音頭を永井顧問が行い終了しました。

お知らせ

「大人の一日散歩」をみどりの日の5月4日に予定しておりましたが、天候不良のため中止といたしました。

参加申し込みは、会員8名、一般8名の計16名でした。

次回も計画したいと思っていますので、ご希望をお寄せいただければ、参考にさせていただきます。

紀行文

常呂遺跡の視察、第2弾報告

2026年4月16日早朝に手稲を出発。今回のメンバーは茂内団長他、林、沖田、伊藤、濱埜の計5人。今回は昨年への訪問に次いで2回目で、茂内団長の事前打ち合わせにより、ところ遺跡の森所長の山田哲氏が直接、昨年秋に完成したばかりのトコロチャシ跡遺跡群を案内してくださることになっている。期待を持って車上のひととなった。

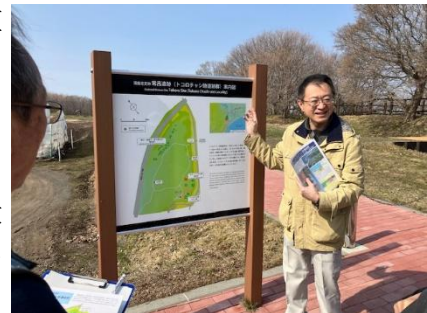
北見のうどん屋で腹ごしらえ、その後まっすぐ遺跡の森のところ埋蔵文化財センターへ向かった。ところが、山田所長が急用で、今日の説明が出来ないので、明日の行動予定と交換することになり、今日は所長お勧めのところ遺跡の館の見学をすることになった。



常呂遺跡はその規模、種類の多さで群を抜いて居り、縄文中期の温かい気候の中で、北海道の中心がここにあったのではないかと思われるほどである。オホーツク海に面してサロマ湖から常呂川にかけて広がる遺跡群には3千軒をも超える竪穴が残されているのである。また発掘調査は現在も続いており、正に国家的規模になっている。特にオホーツク文化が擦文時代に押し寄せ、北海道の北部から千島列島、樺太に痕跡を残したが、その象徴的な5角形の敷地に組建てられた竪穴式住居跡が目を引く。20人ほどの大家族が暮らしていたと思わせる広い造りになっている。その後歴史はアイヌ文化期に入るが、常呂のアイヌはオホーツク人の残した後を再利用しているのもよくわかる。

翌日、朝8時30分に山田所長がさとう旅館に現れる。一同記念撮影をして近くのトコロチャシ跡遺跡群に向かう。常呂川の下流が迂回するところに標高20メートル程の高台がある。最初に見た遺跡が5角形の形をした竪穴式住居跡で、明らかにオホーツク遺跡である。山田所長の話によると、18世紀初め頃、この遺跡をアイヌがチャシとして利用していたという。チャシは祭りや集会、戦いの際の拠点として使われた施設で、堀で区画され、周りが柵で囲われていたと考えられている。

その隣にはオホーツク文化住居の再現展示があり、その中を見せて頂いた。室内展示の奥には頭蓋骨が積み上げてあり、熊の骨だという。熊祭りの風習はオホーツク人がもたらしたものという説明を受ける。窪地の上に大きな屋根をかけ、冬には屋根から出入りしていたとか。紀元400～500年頃北海道に入ってきたオホーツク人はその後500年ほどは住んでいたことになる。特に漁業や海獣の猟などに大きな影響を残した。1時間ほどの視察であったが、貴重なお話を色々伺うことが出来た。山田所長にはお礼を申し上げここでお別れした。



今回の視察で1番の収穫は、山田所長に縄文人はアイヌ前期と言えるのではないかと質問した時に、「アイヌ文化期、擦文時代、などの呼称は考古学者が自分の都合で勝手に決めたことで、生活の実態を述べているものではない」とお聞きした事だった。和人が北海道に入る前は、アイヌ人しか暮らしておらず、縄文人、続縄文人たちがアイヌ前期に当たると考える人が増えていくのではないかと考えた。

その後、白滝にある遠軽町埋蔵文化財センターに寄り、国宝指定の黒曜石器をはじめとして旧石器時代の300万点を超える石器が発掘され、センターに展示されたものを見て札幌へ戻った。

お知らせ

石狩郷土史研究会との交流会を6月8日(月)午後1時より、旧永山武四郎邸にて開催予定をしております。交流会の内容については、次回会報で報告したいと思います。、

次回定例会 令和8年6月20日(土) 13時30分～ 区民センター3階視聴覚室

発表内容 「ジンギスカン誕生の謎に迫る」 まち歩き団体デスカバーエゾ 伴野 卓磨 様

手稲郷土史研究会 会報「郷土史ていね」第217号 令和8年5月16日発行

発行責任者：沖田紘昭（手稲郷土史研究会 会長） 編集：菊池博行・伊藤政克

❖006-0818 札幌市手稲区前田8条11丁目4-5 林俊一方 手稲郷土史研究会

*TEL 090-3381-4994 *FAX 011-682-9874

❖メールアドレス teinenorekishi@gmail.com 担当 菊池 博行